

おしらせ

女性研究者のための賞

2020年度受賞者



農芸化学女性研究者賞

農芸化学分野で顕著な研究成果をあげた女性研究者で、これからも高い研究成果をあげて農芸化学研究の発展に寄与するとともにキャリアアップが期待される女性研究者を顕彰する賞です。



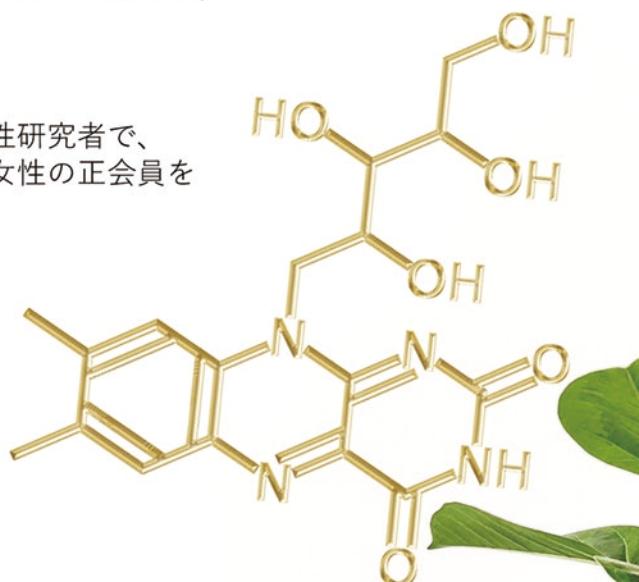
農芸化学若手女性研究者賞

農芸化学分野で優れた研究成果をあげた女性研究者で、表彰年度の4月1日時点で満40歳以下の女性の正会員を顕彰する賞です。



農芸化学女性企業研究者賞

企業において農芸化学分野の研究あるいは商品開発における顕著な成果に貢献した女性正会員を顕彰する賞です。



内閣府の第5次科学技術計画（平成28年度～令和2年度）では、女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、その活躍を促進していくことが不可欠である、と謳われています。農芸化学分野においても、研究および産業の発展を図るために女性研究者の人材育成と各分野での活躍が必要です。そこで、日本農芸化学会は大学、公的研究機関、企業等で研究あるいは開発に従事し優れた成果を挙げている女性正会員を‘支援’し‘可視化’することを目的に、3つの賞を2017年に創設しました。このたび、農芸化学女性研究者賞、農芸化学若手女性研究者賞、農芸化学女性企業研究者賞の2020年度受賞者を決定しました。

公益社団法人日本農芸化学会会長 吉田 稔
ダイバーシティ推進委員会委員長 熊谷 日登美



2020年度

農芸化学女性研究者賞

JSBBA Award for Women Scientists



イチ イクヨ
市 育代氏
お茶の水女子大学
基幹研究院自然科学系
講師

【受賞題目】

脂肪酸の栄養状態で変化する生体応答の制御機構に関する研究

栄養素の中で敬遠されている脂質ですが、生体における重要性を知り、脂質の研究に興味を持ちました。研究には思いどおりにならないこともたくさんありますが、物事を追求することは楽しいと思うようになりました。また、些細な研究成果でもそのときの喜びと達成感は、研究のモチベーションを上げてくれます。そして、私自身研究を通じて多くの仲間や知り合いができる、世界が広がりました。多くの女性に研究の楽しさを知ってもらい、今後研究者を目指す女性が増えることを願っています。



イナバ ヤスコ
稻葉 靖子氏
宮崎大学農学部
准教授

【受賞題目】

種子植物の生殖器官における発熱分子機構とミトコンドリア特性に関する研究

私はポスドク時代から、発熱植物の研究を始めました。発熱のしくみや発熱植物の進化的起源など、尽きることのない興味が今の研究の魅力です。さて、理系研究者を目指す若い人には、実験と試行錯誤と議論を沢山して、論文を読んで書いて、とにかく自分を鍛えてほしいです。私自身、学生、ポスドク、テニュアトラック時代の鍛錬とサバイバルが、今の仕事を支えています。若い頃の苦労がないと、人生も研究も楽しめません。頑張って下さい！



ニシムラ マリエ
西村 麻里江氏
農業・食品産業技術総合
研究機構（農研機構）
理事長補佐役

【受賞題目】

植物病原性糸状菌をモデルに用いた糸状菌における環境認識と応答に関する研究

「自分の研究で、新しいことが分かるかもしれない、もしかしたら世の中が少しだけ良くなるかもしれない」というのが理系研究者の夢であり、楽しみでもあると思っています。農芸化学は私達の生活に最も密接した、バイオ、食品、農業などを扱う研究分野です。研究は様々な背景、考え方、価値観を持つ人が混じっているほうが良い成果が出ます。女性研究者がもっと増えると世の中がきっと良くなります。皆様の仲間入りをお待ちしております。

2020年度

農芸化学若手女性研究者賞

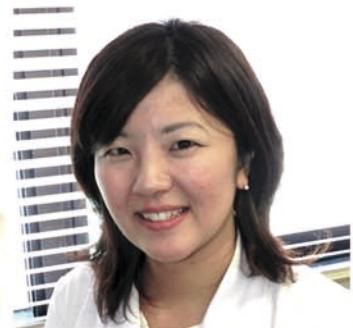
JSBBA Award for Young Women Scientists



【受賞題目】

糸状菌におけるリグノセルロース分解酵素遺伝子の発現制御機構に関する分子生物学的研究

バイオテクノロジーって面白そう、そんなイメージだけで農芸化学分野に進学しましたが、微生物の無限の可能性とそれを研究する楽しさに触れ、継続してきた結果今の自分があります。思い通りの結果が出ないことが多いですが、仮説が実証できた時あるいは予想外の新しい現象を発見できた時は達成感や研究の奥深さを感じます。研究者を目指すことに不安がなかったわけではありませんが、自分の人生を楽しもう!と興味があることに挑戦したことで道が開けてきたかなと思います。



クニタケ エミ
國武 紋美氏
三重大学大学院
生物資源学研究科
助教

【受賞題目】

シアル酸含有糖鎖の合成研究および細胞膜ドメイン解析のための糖脂質プローブの開発

大学の講義をきっかけに、多彩な機能を発現する糖鎖に興味を持ちました。実際に糖鎖の化学合成研究に取り組んでみると、天然に存在する複雑な糖鎖の構造を精密につくることはとても難しく、何度も壁にぶつかりました。それをどうやって乗り越えるかを考えて実証するところに研究の面白さを感じます。農芸化学の分野で活躍される女性研究者は多くいらっしゃいますので、これからも研究に携わる女性が増えていってほしいと願っています。



コウムラ ナオコ
河村 奈緒子氏
岐阜大学
G-CHAIN
特任助教

【受賞題目】

未知の中心的代謝酵素の探索と性状解析 －生命の多様性および進化の理解を目指して

学部時代に微生物学に出会い、小さいころから興味があった生命の誕生と進化に近づけるのではないかという漠然とした希望を抱いて研究室の扉を叩きました。その後より具体的に代謝生化学を研究したいことに気づいて、博士後期課程進学にあたり研究室を異動しました。それぞれの環境でベストを尽くすこと、一方で自分が一番研究したいことは何か問い合わせ、それに適した環境に身を置くこと、この2つをバランスよく行えると、充実した研究生活が送れるのかなと思います。



チバ ヨウコ
千葉 洋子氏
理化学研究所
環境資源科学研究中心
研究員



2020年度

農芸化学女性企業研究者賞

JSBBA Award for Women Corporate Researchers



クボタ ヒロミ
久保田 浩美氏
花王株式会社
スキンケア研究所
主席研究員

【受賞題目】

日用品・食品の開発につながる微生物制御の基礎研究

意識するしないにかかわらず、私たちは日々微生物に接し、共に暮らしています。生活に身近な目には見えない小さな生物に魅せられ、学生として企業研究者として微生物研究に携わってきました。まだまだ未知の部分が多い“微生物の真の姿”を探ることが人や地球の未来に大いに役立つ技術の開発につながると信じて微生物研究をしています。皆様の研究に微生物学の視点もとり入れてみませんか？

【受賞題目】

発酵中にホップを添加する製法による発酵促進とその応用

化学が好き、食べることやお酒を飲むことが大好きという理由で、ビールの研究者になりました。ビールをひとくち飲んで「ああ幸せ」と思って頂きたい、という思いでおいしいビールづくりに関する研究をしています。お客様がおいしそうにビールを飲んでいる姿を見た時が最高に嬉しい瞬間です。私なんかにできるわけがない、女性だからこうあるべき、などと窮屈に考えずに、明るい努力を積んでいけば、道は切り拓けると思っています。



ツチヤ ユリ
土屋 友理氏
キリンホールディングス
株式会社 酒類技術研究所
研究員

女性研究者のための賞は、年度が異なれば本会の他の賞と重複受賞が可能です。

女性研究者賞と若手女性研究者賞は自薦で応募できます。

研究助成金は、今年から、女性研究者チャレンジ研究助成および若手女性研究者チャレンジ研究助成での助成になりましたので、女性研究者賞に応募なさる方は女性研究者チャレンジ研究助成、若手女性研究者賞に応募なさる方は若手女性研究者チャレンジ研究助成にも、是非、併せてご応募ください。

日本農芸化学会 ウェブサイトにて受賞講演要旨や過去の受賞者情報をご覧になれます。
下記URLより各賞のリンクをご参照ください。
<https://www.jsbba.or.jp/about/awards/>

